

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	②基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ①思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ①主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 ①読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ③家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・週に1回さくらタイム(放課後学習)を実施する。 ・朝学習で、定期的に学力補充を進める。 ・漢字小テスト、算数タイムを定期的に実施する。 ・CRTテストを全学年で行う。 ・ペア学級での教えあい活動を実施する。 ・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、ペアや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。 ・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書月間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。 ・さくらノートの活用や読書を含め、家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。	・教育課程部を中心に朝学習・えんぴつタイム・さくらタイムを計画的に実施し、学力補充に努める。 ・漢字小テスト、算数タイムを年間30回以上する。 ・年度末にCRTテスト(国語・算数)を実施する。 ・学期に一度行う。 ・ワークシートや授業の振り返りの記述、発表の内容などに、考えの深まりが見られる。 ・授業の中で、ペアトークを取り入れる。 ・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が70%以上になる。また、保護者アンケートの「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が70%以上になる。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。	C	・授業、朝学習(えんぴつタイム・算数タイム)、さくらタイム、放課後学習等とおして、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数の学習で自発的に参加したい児童も含めながら、週1回学力保障に努めた。 ・基礎的、基本的な内容の到達状況を把握するために、国語・算数のCRTテストを全学年実施した。 ・レポートや新聞などの書く場面を発達段階に応じて授業に取り入れることができた。 ・思考を深めるためにペア活動やグループ活動を授業に取り入れることができた。 ・読書の量や質に課題がある。 ・読書月間、朝読書、市の図書館からの貸し出しなど読書指導に努めた結果、本が好きな子どもは多い。しかし、1週間に1時間以上本を読んでいると回答した子どもは45%にとどまっている。また、保護者も「家庭で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が58%である。 ・家庭学習の目標時間を踏まえて課題を与えたり、さくらノートコンクールを実施したりして、家庭学習の推進に努めたが、児童の取り組み方に差が見られた。	・引き続き、基礎、基本の定着のための方策を図っていく。(授業・漢字小テスト・算数小テスト・さくらタイム・放課後学習等) ・引き続き、国算において学力の保障を継続させる。 ・テスト結果をもとに指導のあり方を工夫・改善していく。 ・アシストシートにより、児童の弱点補充を行っていく。 ・ペア活動を学期に1回実施する。 ・単語での発表を良しとせず、主張・理由・根拠を大切にした発表を今後も学校全体で取り組んでいく。 ・毎週行う図書の学習に合わせて、ブックトークをするなど、学校司書と協働しながら多様な選書を促していく。 ・授業を聞きっぱなしで終わらせず、発表する機会を保障することで、児童のより確かな理解へとつなげる。 ・読書月間の内容の見直し、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りに努めていく。 ・図書館からの配架の充実を図るとともに、学期ごとに学年で学級文庫の交換を呼びかける。 ・学校での読書の習慣を家庭でも継続できるように、読書月間や図書だよりの発行などを通して家庭読書を推進していく。 ・家庭学習に取り組む良さや必要性を懇談などを通じ、伝えていく。 ・引き続き、家庭学習推進に向けた取り組みを行っていく。(さくらノートの活用、読書、宿題チェック後の保護者サイン等)	全国学力調査の結果報告などから、着実に桜台小学校児童の学力向上への取り組みが功を奏していると思う。読書についての課題は、一概に社会・家庭の問題と一蹴するのは問題があるかもしれないが、大きな影響を受けていると思う。 朝読書に変わる工夫を。 聞くだけでなく、「楽しい」と感じる工夫を。
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ③児童の情報活用能力の育成を図る。	・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板やタブレット等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。 ・タブレットの操作等において、情報活用能力を高める。	・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。 ・電子黒板タブレット等を各教科の中で効果的に活用する。	B	・「先生は教え方にいろいろ工夫している」と答えた児童は90%を超えている。 ・通常の授業及びオンライン授業等において、タブレットで活用することができた。 ・情報活用能力(情報モラル)について課題がある。 ・家庭での活用に課題がある。	・授業の中で、効果的にタブレットを活用する研究を進めていく。 ・機器の操作だけでなく、インターネットやSNSの使い方等、情報モラルについても指導していく。 ・ICT支援員を活用していく。 ・家庭での活用方法などを発信できるように努力する。	子どもたちが、社会に出た時には、デジタル社会の中での大きな力になると考える。情報を正しく正確に、しかも早く読み取る力が肝要となるだろう。もちろんその手前にリテラシーの眼力を高める力も必要で有る。学校教育で全てを養うのは、困難だが常にリスクを示すことは、重要だと思う。

学校教育

<p>徒の育成</p> <p>「豊かな心」の育成</p> <p>①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施</p>	<p>③不登校児童の未然防止に努める。</p> <p>①②道徳の授業をはじめ、いろいろな場で違いを大切に児童理解に努め、違いを認めあえる子どもを育てる。</p>	<p>・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。</p> <p>・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。</p> <p>・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。</p>	<p>・教職員アンケート「1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。</p> <p>・児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」と回答した割合が85%以上になる。</p> <p>・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。</p> <p>・児童アンケートにおいて「命をたいせつにすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。</p>	<p>B</p> <p>・1日の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行うと回答した教職員が80.8%だった。不登校対策支援員と連携をして、組織的な対応を行った。</p> <p>・「自分を大切にすることや他人への思いやりについても教えてもらっている」と回答した児童が90%以上であった。</p> <p>・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答した児童が70%以上であった。代表委員会が積極的にあいさつ運動を行った。また、管理職や専科の教職員が登下校時にあいさつ運動を毎日行った。</p> <p>・「命を大切にすること、いじめやいたずらされた人の気持ちを考えています」と回答した児童が90%以上であった。</p> <p>・「子どもは自分からあいさつをしている」と「桜っ子のきまりや学習に集中できる子に家庭でも話し合っている」と回答した保護者の割合が低く、家庭の理解をより一層得る必要がある。</p>	<p>・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。</p> <p>・不登校対策支援員やふれあい相談員等の配置を強く希望する。</p> <p>・さらに、あいさつの大切さを提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。</p> <p>・アンケートの結果や児童の様子を注意深く観察して、児童理解に努める</p> <p>・ICT活用推進部と連携しながら、情報モラル教育を推進する。</p> <p>・引き続き、毎月児童の様子を共通理解する場を設ける。</p> <p>・引き続き、毎学期に行っている「桜っ子のきまりふり返り」を持ち帰らせ、家庭でも話し合いができる機会を設ける。</p>	<p>月に1度青色パトロールで、複数の市内学校園のそばを通る。その際に感じるのだが、桜台の児童は、こちらから声掛けしても、反応が薄いように感じている。(私の同乗者も同意見です)どこことなく子どもらしい「ひとつっこさ」が他校より薄い様に感じる。もしかしたら、他校児童より警戒心が強いのかもかもしれない。</p>
<p>「健やかな体」の育成</p> <p>①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進</p>	<p>①生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。</p> <p>①体を動かすことの楽しさ及び仲間とかかわり合うことの楽しさを味わわせる。</p>	<p>・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。</p> <p>・冬期の業間休みに週一回耐寒運動を実施する。</p> <p>・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。</p>	<p>・冬期の業間休みの耐寒運動の実施計画を立て、行う。</p> <p>・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。</p>	<p>B</p> <p>・スポーツテストの結果が全国平均を大幅に下回った。</p> <p>・「運動能力や体力の向上を図り、粘り強い児童の育成に努めた」と回答する教職員は85%を上回った。</p> <p>・児童は、進んで鉄棒週間・耐寒運動の大縄に参加することができた。</p> <p>・児童アンケート「1日1回は遊んだり運動したりして体を動かしている」と回答した割合は80%を下回った。</p>	<p>・授業の中にサーキット運動を取り入れていくことを進めていく。</p> <p>・体育により親しめるような行事を行っていく。</p> <p>・サーキット運動を取り入れるなどの授業改善を行っていけるよう職員に伝えていく。</p> <p>・長距離走の単元をカリキュラムに組み込むなど、体力向上に向けたカリキュラムの見直しを行っていく。</p> <p>・児童の意欲が継続するように、記録の掲示・発表をしっかりと行っていく。</p> <p>・外遊びに親しむ態度を育てるため、体育行事などを積極的に行っていく。</p>	<p>市内小学生全体と比べると、外遊びをしなくなった様に感じる。体育の時間の重要性を感じる。</p>
<p>教育相談・支援体制の充実</p> <p>①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実</p>	<p>①キャリア教育を推進し、主体的に学ぶ児童を育てる。</p> <p>②スクールカウンセラーを活用する。</p>	<p>・キャリアパスポートを記入し、言動を振り返る。</p> <p>・スクールカウンセラーによる授業を行う。</p>	<p>・キャリアパスポートを年間3回(目標・半期の反省・年間の反省)実施する。</p> <p>・年間1回行う。</p>	<p>B</p> <p>・キャリアパスポートについて、小学校一中学校と続けて取り組むと聞いているが、中学校への引き継ぎができていない。</p> <p>・スクールカウンセラーによる健康参観を行い、保護者に啓発できた。</p>	<p>・キャリアパスポートの記入をしてもふり返りをしたり自分と向き合わせたりする機会が少ないので、学級会などで自分を振り返って今の自分自身が成長しているのかを考える機会をもつことを進めていきたい。</p> <p>・中学年は、年間1回はスクールカウンセラーによる授業を行う。</p>	<p>世の中の就労体系や職業人意識が大きく変わっていている。小学校～高校生の時期に、どのように育み伸ばすか、大きな課題で有る。</p>
<p>特別支援教育の推進</p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>②インクルーシブ教育の推進に努める。</p> <p>②児童理解に基づく個に応じた合理的配慮の提供と基礎的環境整備を充実する。</p>	<p>・支援についてチーム(学年・学校)で対応するために、子どもの情報交換をこまめに行う。</p> <p>・毎月の部会で、児童の実態を吸い上げ、支援方法・体制を検討する。</p> <p>・児童理解に基づく個に応じた合理的配慮の提供と基礎的環境整備の充実する。</p>	<p>・教職員アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している。」と回答した割合が80%以上になる。</p>	<p>B</p> <p>・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し教職員アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は80%を上回った。</p> <p>・毎月の特別支援教育部会で、各学年から報告された児童の実態を吸い上げ、共通理解を図ることができた。</p> <p>・今年度も騒音対策として、さらに多くの児童の椅子にテニスボールを取り付けたが、まだ全部の教室にはつけられていない。</p>	<p>・個別の指導計画の書式をより記入しやすく活用しやすいものに変更していく。</p> <p>・児童の報告は必要に応じて職員会議後の時間を利用し、全職員に共通理解を図る。</p> <p>・引き続き、通常学級の中でついていないところにも順次テニスボールをつけていく。</p>	<p>社会全体がDEI(多様性・公平さ・取り残さない社会)に移行している。伊丹の学校教育は、他市より先行していると感じている。</p>

	<p>教職員の資質向上</p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。</p>	<p>・授業力を高めるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。</p>	<p>・年6回の校内研修を実施する。</p>	<p>B</p> <p>・年3回の校内研究、研究発表会および、校内研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。 ・数学的な見方・考え方を育てる第一歩として、子どもの考えに寄り添い、授業を進めることができた。 ・「めあて」「まとめ」「ふり返り」を意識した授業展開に加え、授業の山場を意識して授業を行った。 ・校外より以前桜台小に勤めていた先生方を講師として招き、講話を拝聴した。</p>	<p>・年間で見通した計画を立て、無理なく推進できるようにする。 ・引き続き、数学的な見方・考え方を獲得する場面での話し合いを取り入れた授業を行う。 ・授業の山場が盛り上がったor深まらなかった要因を分析し、導入や問題設定、単元構想などの手立てを工夫する。 ・児童や学校としての成長を見つめながら、現在の本校の児童の実態に合わせ、研究に生かしていく。</p>	<p>教師の働きがいが、分岐点に差し掛かっている様に思える。伊丹の未来を担う児童の発育・発達に大きく寄与する教師育成に、万策をねることが重要とおもう。先輩教師や教師OBを招いて、身近にアドバイスを受けれる、力を貸してもらえる様になれば、とても有り難いと思う。</p>
<p>教育環境の整備・充実</p>	<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>②色々な機会を通して、積極的に学校情報を発信する。</p>	<p>・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。</p>	<p>・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを定期的に更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が90%以上となる。</p>	<p>A</p> <p>・学校通信(学校だより)の発行、HPの更新は十分にできたと考える。 ・学校HPを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信することができた。</p>	<p>・新たに導入されたGoogleclass room等のシステムを積極的に活用していく。 ・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。 ・今後も継続してホームページの更新を続けていく。 ・学年HPの更新回数について制限をなくし、更新頻度を上げる。 ・ICT支援員を活用する。</p>	<p>マンパワー不足をDXの活用の促進を進めて頂きたい。 HPの更新があまりなく、もったいないと感じる。</p>
	<p>安全・安心な教育環境の充実</p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>・子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。 ・学習環境の管理・整備を行い、安全な学校生活が送れるようにする。</p>	<p>・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。(年2回) ・防犯訓練(不審者)を実施する。(年1回) ・引き渡し訓練を実施する。(2年に1回・今年度実施) ・安全点検を行う。(月1回)</p>	<p>・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している。」と回答する割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答する割合が90%以上になる。</p>	<p>A</p> <p>・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」「子どもの安全に関する適切な指導をしている」と回答した保護者は90%以上であった。 ・緊急時施設用の鍵を各教室に設置した。 ・地震避難訓練の事前学習用資料の内容を見直し、新たに作成した。 ・ろうかを走る児童が多く、粘り強い声かけが必要である。</p>		<p>安全・安心の総点検を行なってほしい。ぼちぼち安全に関わるハードもソフトも更新期に来ている様に思われる。</p>

学校関係者評価総括 足掛け4年間のコロナ期を無事に乗り越えて頂いたことに対して、心より感謝申し上げます。昨年5月からアフターコロナ期に入り、多忙をきわめられると思います。学校管理者を筆頭に、教職員の職務量の増加とメンタルヘルス負担の増加に対して、定期的なアンケートや面談で把握と、教育委員会事務局各部署との連携で、働きやすい教育環境・職場環境となることを願っております。

次年度に向けた重点的な改善点 学校の安全・安心の総点検とそれに基づく設備などの更新

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った